

ゴルドン女史著
菅原教造譯述

美
學
講
話

全十八講

『婦人と子ども』附録

第一講 入門

第二講 心像の話

第三講 感情の話

第四講 藝術の起原と職分

第五講 リズムの話

第六講 舞踊の話

第七講 音楽の話

第八講 色彩の話

第九講 線と形の話

第十講 圖案の話

第十一講 建築の話

第十二講 彫刻の話

第十三講 繪畫の話

第十四講 言語の話

第十五講 詩の話

第十六講 戯曲の話

第十七講 散文の話

第十八講 美と藝術

第十講 圖案の話

— 目 次 —

定義——寫實的興味が根元——反覆——リズム——系列に於ける位置の効果——大きさの効果——對稱又は形の均合——興味の平衡——垂直軸線に於ける平衡——中心的平衡・對・軸的平衡——錯視の効果——活動と安靜の合致——條件への順應

定義 「圖案とは、人間の思想感情の有する秩序である、又其思想感情を表現する多種多様な活動を意味する」と、ロスは云ひ、バチエルダーは更に「よき圖案とは、常に健正であつて規則的に整頓し、且徹頭徹尾鞏固なるもの」と申して居ります。要するに圖案と云ふ事は、どの藝術に於ても、常に或目的の表現であり、又或觀念に適應せんが爲めに改修された材料であると云ふ事が出来ます。尙之を少し精しく説きますと、圖案の藝術點には、必ず人爲的に加へた規則又は法則の跡が

あります。第二講心像の話で、創作的想像とは、相異なる物と物との間に連絡を見出し、其の類似點を強める事であると申しました。圖案も之と異なる事はありません。圖案家は或物即ち或材料を持つて居りまして、それを或他のもの即ち或觀念に類似するやうに仕上げるのであります。たとへば三つの花を採つて三角といふ觀念に適する様に置いたとすれば、それで圖案を作つたと申されるのであります。

裝飾的圖案の意味は、之を寫實的描寫的圖案と

奇怪なる誇張的圖案とに比べ合せて見ればよく分かります。眼に訴へる藝術の圖案の材料は、畢竟目に見えるもの、即ち人間、動植物、無生物等に由來して居ります。第一に、圖案家が斯う云ふ材料を取り扱ふ時に、それを改修する事は餘り念頭におかずに、専ら忠實に模寫するならば、その作品は寫實的と呼ばれます。第二に、圖案家が或觀念を以て其の材料を整頓し調和するならば、即ち其の材料と適當な然も特種の形にあてはめるならば、その作品は裝飾的と呼ばれます。第三に、圖案家が專恣になつて材料に課する觀念の度が勝ち、觀念のために自然の形が破られますと、其の作品は空想的若くは奇怪と呼ばれます。材料を取扱ふ上の此の三つの法則は、用ひ様に依て何れも美しい結果をも醜い結果をも生じますが、中に就て最も美しいものを出す機會の多いのは、第二の方即裝飾的方法であります。外の二種は共に極端で、寫實の方は自然其儘と云ふ極端に奔り、奇怪の方は



思ひ切つた人間の物好きを示し過ぎます。右の圖と左の圖とは、鳥の形を變改した方法を二つ表はして居ります。前者は通例の裝飾法、後者は誇張した奇怪な方法であります。

寫實的興味が根元

近頃の人類

學者の説に依りますと、原始藝術は最初には寫實的であつた。又は少くとも寫實的ならんとしたものであると申します。野蠻時代には、藝術家は色々の目的の爲めに、人や獸の形を表はす事を喜んで、單一な線などに餘り興味を感じませんでした。現



存の未開種族の所謂「幾何的」圖案には、實際さう云ふ種族の代表的價値又は特有の意をもつてゐるものが澤山あります。生きた形を斯様に抽象的

に若くは象徴的に表はす様になつたのは、或場合には漸次減少的過程即ち省略した結果と見ることも出来ます。此の略筆は、勞力節約の工夫でもあれば、亦藝術的の工夫でもあります。



れば、亦藝術的の工夫でもあります。

此の圖はさう云ふ單純化の段階を示して居るもので此の發達の最後の段階だけを見れば、是も寫生に始まつたものとは一寸思はれませぬ。是に依て推せば、抽象的の線及簡單なる形其の物に對する趣味、若くはむしろその直接的美的效果に對する趣味は、線の代表的又は間接の價値に對する興味よりもおかれて生じたものであると申すことが出来ます。

東洋人に在ては、猶代表的價値に對する興味が、最も裝飾的な慣例的な作

の場合ですら附き纏つて居ります。バードウッドは東洋風な敷物の圖案の象徴的な點に就て、斯う云

つて居ります。「如何なる種類の裝飾にもせよ、深い複雑な象徴主義が、東洋風の敷物のあらゆる名稱に通じて行き渡つて居る。即ち敷物それ自らが空間と永遠とを豫表して居り、全體の模様、専門的に云へば填充物は、生氣ある美を持つ有限の宇宙を表はして居る。また使つてある色にも、それ／＼意味が有つて、圖案は神話なり、自然なり、人なり、獸なり、花なり、皆隠れた意味を以て居るのである」と。藝術に對する斯かる態度に引きかへて、近代西洋人は、藝術品の眞の意義は、その表面の價値、觀者に對して與へる印象にあるので、圖案家の人しれぬ夢や隱微な意味にあるのでは無いと信じて居ります。繪畫の寫生的即ち代表的性質は、幾分過去に關係のあるもの、即ち其の繪の由つて起つた原物に強く關係して居ります。が吾等文明人の美的態度は、寧ろ現在の感覺の満足に關し、在るがまゝの繪及その刺戟し暗示し得るものに關して居ります。此の刺戟的性質は過去ではなくて將來

に關係のあるものであります。但し是は智的では無くて情的の關係であります。

藝術家が藝術上の純然たる寫生的目的を離れますと、何か明確な指針を失つた様な氣がいたしません。忠實な再現の原則をすてれば、其代りに他の原則を採る必要が起るのであります。そこで製作の指導たるべく一團の傳説が出来て来て、其の法則にさへよれば、如何なる場合も美を得とは云へぬまでも、それに依れば美を得る事も出来、又得る事が珍らしくないと云ふ事は容易に證明ができます。

反復 それ自身としては無意義な線や形が反復されて始めてものになつて居ると認められる事もよくあります。反復の快い効果の一例は、百六十四ページに説明する筈の實驗に出て居ります。此の検査に用ゐられた圓は、同じ要素を反復した一系列を成して次々に大きさが増すやうに成つて居ります。所が二つ三つ四つ位の圓を列にして

見せますと、被験者は餘り快感を感せず。一向「意味」のない實驗であると思ひました。然るに十か九められました。米國の心理學者ウイットマーも亦或形が一系列を成して居れば、被験者はその形に別段意味がなくとも不服はないと云ふことを實驗で見出しました。系列中の一要素であると云ふ事實は、立派な意味であるものと見えます。斯う云ふ事實は習慣の法則で心理的に説明が出来ます。何にもせよ、習慣的なもの、又は固定された規則と合致するものは、議論に及ばぬものとして受け入れられるもので、慣れれば従つて意味が伴ひ、それ以上に取り立て、意義を要求することはない様に思はれます。

米國の心理學者ローランドは、いろ／＼變つた集め方にした垂直線を材料に採つて反復して空間的形を實驗致しました。その結果、反復された一系列の中には重大な要素があり、それが繰り返さ

れて重大の系列となり、一方には劣少の要素が反復されて重大な系列と交替或は補充の系列を成して居ることが分りました。例へば此の



圖の三筋の反復は優大の系列を構成し、一筋の反復は劣少又は更替の系列を作ります。もしこの形に一本づつの筋が無かつたならば、更替の系列は三筋と三筋との間の空間で作られます。此實驗者の云ふには、大系列中各要素は、その系列全體の効果を破壊せずに変化することが出来るが、交替の系列の要素に変化が來ると、全經驗が擾亂されると申します。(彫像の列ならば、各像が互に異つて居るのは快感を喚びますが、像と像との間の空間が不規則では不快を催さ

せるのは睹易い事實であります。)同じ實驗者は、視覺に訴へる系列にはリズムがある様に感ぜら

れ、此の感じは直接的である、即ち或物が規則的に去來すると云ふ智識から來るのではないと云つて居ります。耳に訴へるリズムと、眼に訴へるそれとの間の類似は非常に強いのであります。(學者に依ては視覺對象に對する「リズム」なる語の範圍をもつと狭くとつて、ローランドの用ゐた様な系列は、當然リズム的とは云へぬといふ人もあります。此點に就ては後に又申します)。反復に依て起る快感に就て、なほローランドは系列は觀察者に或反應を起させる。その反應が其人のリズム的組織と一致すれば快とよばれ、しなければ不快とよばれる。或種の人に於ては、此のリズム的反應が非常に顯著で、經驗の意識的部分として感ぜられる位であるが、又人に依ては系列の對稱的性質の方がそれよりもつと際立つて感ぜられるのもありと云つて居ります。

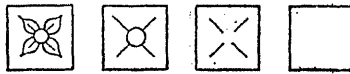
嚴正な形の反復は、模様構成の眞の土臺である事は、模様は學術上の語では「反復」として知られ

て居るのに見ても分ります。代表的即ち描寫的が藝術に使はれる時には、反復は幾分形を變へなければなりません。彼のバルテノンの小壁の如きは、人物をどこ迄も繰り返しては居り乍ら、姿勢と性質とを極りなく變化させてあります。もつと硬い反復の型は、念珠の紐や、刺繡の模様や、見え隠れの圓柱の溝の場合の様に、從屬的な關係で繪に用ゐる事が出來ます。

リズム

空間名辭としてのリズムは、特種の方向に規則的に進む運動を暗示する様に、形を配置し又は反復する事を意味して居ります。ロスは、「凡ての空間リズムの場合には、リズムが人を導く方向、人がリズムに従つて行く方向が、明白でなければならぬ」と云つて居ります。此の制限によれば、左の如く方向が等しく何方かでも讀める様なのは、嚴正なリズムのもの

では無く、右の圖の如く、必ず左から右へ讀まれる様なのがリズム的なのであります。無論斯様云ふ形を見るにも、右から左へ眼を移せば移してゆかれぬことはありませんが、併し形自身の暗示を



感ずる人は、誰しも先づ左から右へ讀みます。右の圖では、要素又は單個の意匠がひとりで運動を起させて、圖案全體として唯だそれを反復して居るに過ぎませぬ。併し離れ々にした個々の要素は運動を持たずとも、それを合はせて成した系列にリズムを得る事は出來ます。此の圖のやうに單純なものから漸次に複雑なものにうつつて行く系列は、眼を一番複雑な形の方に引きます。又百六十三ページのa圖及びb圖の如く大きさ又は間隔が次第に減つて行く一系列は、一定の方向に向かつて運動の感じを與へます。aは一點に歸聚して來る線のために運動の感じを起し又は線が一と所に集中して居る

爲めにさう云ふ感じを與へるので

c あります。c 圖に於けるが如く、通

景は a と b との効果と同時に收め

ることがよくあるので、従つて其

の出會點に眼を惹く力がありま

b す。一定の方向への整齊的運動の

意味に於けるリズムはローランド

が反復の實驗に使用した形にはあ

a りません（百六十一ページの圖參

照）がそれでも其の時の被験者は、

聽覺リズムに似た何物かを實際感

じたのであります。其時の被験者の經驗したリズ

ムは、その方向が系列自身によらず人に依て極め

られると云ふ意味に於て、これを主觀的リズムと

看做せば、視覺的系列に、應用されたリズムなる語

の二様の使ひ方も許されます。それで運動の方向

が系列自身に依て極められぬ限り、系列には客觀

的リズム無しと云ふロッセの説に同意が出來ます。

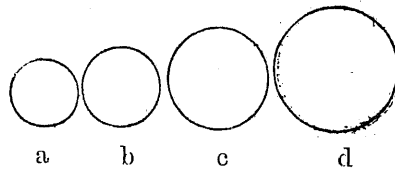
系列に於ける位置の効果

簡単な形に對す

る快不快の判斷は、その形の包含される系列の性質に依て影響をうけます。故に或形を系列中の或場所に於けば、特に牽引力を強めることが出來ます。ウットマーは、簡単な形の時には系列の中央のものが選ばれる傾向を見出した。著者の實驗の時には（數は制限す）、與へられたる系列の兩端にある形以外のをえらぶ傾向がありました。大きさの違ふ圖を用ゐて、一度に二ツ・三ツ・四ツといふ風に、一度に十一まで次第に變つた系列で實驗をしました所が、三ツ一度に見せますと、中央のを最も快適としてえらぶ傾向があり、四ツもしくはそれ以上の圖を一緒に見せますと、前には隣の圓より劣ると見られたのでも、平衡の中心點又は支點の邊にあたれば快いと思はれるのでありました。

次のページの圖では、c が最も快適のものとなれましたが、d を見せない時は b が一番好いと云

はれました。同じ實驗を均合の異なる矩形にも試みましたが、矢張り隣接矩形の均合に依て好悪は定められました。かう云ふ點で、簡単な形を示して居る系列の如何に依て、其の形の美的判斷に影響



を來すといふ通則の説明が出来ます。上述のよりもずつと廣い範圍で實驗をして見度い者であります。其の結果は大抵美的判斷に於ては、極端を避けて類型的のもの(必ずしも平均せる形には限らず)をえらぶ事が證明されませう。

大きさの効果 大きさは、

一の美的性質としても用ゐられ、又崇高の屬性となる事がよくあります。神々及半神的勇者達は、人間よりも大きいものとして表はされて居ります。自然現象中の大きさを描けば能く印象を強めますし、建築に於ては大きさが確に全效果に重大な影響を持つて居ります。併し大き

さは單に精力及力の指標としてののみ效果のあるもので、組織の細小、堅密、精巧も又力を示すものなる以上、大きさは如何なる場合にも必ず美の要素であるとは云ひ兼ねます。英國の美學者は細小は美に必要なものであるとまで申して居ります。要するに大きさは力を意味する時に、小ささは精巧を意味する時に、兩者共に快適であると云ふのが安全で且明確であります。

對稱又は形の均合 色彩の均合についてお

話しました時、布置の中心點は假の支點であり、觀者に好い均合の快感を與へるには、兩側の重さが平等でなければならぬと申しました。完全なる對稱と云ふのは、一半は方向が反對である丈けで形は全然正確に他の一半と同じであります。不均合の形より均合のとれた形を人が好く理由は、模倣運動を基礎にして説明が出来ます。人體は左右均一に對稱的に出來て居り、兩側に對稱的に活動的には活動を起させる刺戟は、凡て肉體の組織と

一致することとなつて居ります。さう云ふ對象は「自然」に且つ調和的に人を刺戟致します。對稱的活動は快いもので、肉體の兩側の質量と活動とが均合つて居る時には、人はいゝ氣持がします、従つてさういふ條件の備はつた時には、外物も亦心持よく見えます。原始藝術にはもう一つ對稱的裝飾の快いことを示してゐる要素があります。未開人は自分の身體を飾る時なり、人と互に飾りをし合ふ時なり、その圖案は必ず對稱的なものに基いて致しました。それで次に平面に圖案を施す均合にも、矢張り對稱的にする傾向が持續したものであらうと云ふ事が出来ます。

平衡即ち均合が良く取れて居るのは快適ではあります、完全な幾何的平衡は、慣例的裝飾美術と建築的の形の外には、滅多に使はれませぬ。それ以外の均合には、多少變化が無くてはなりません。ラファエルは畫家の爲し得る限りの形式の平衡をやつたので、彼のシステイナのマドンナの如きは、

其の適例であります。この畫では全然同一のものを兩側においたのではありませんが。形や團集が殆ど相等しく按排されて居ります。即ち上方の兩側角はカーテンに配するにカーテンを以てし、聖バーバラに配するに法王シスタスを以てし、下方の端では天使に配するに天使を以てして居ります。

對稱又は平衡せる一對の線なり、團集なりの兩側を美術家は「問と答」と呼ぶこともありませぬ。此の圖のcの如きは問で、bが其の答をして居ります。クレーンは「一線一畫と雖も答」即ち應通的反響的線又は團集しては描く事を得ず」と云つて居ります。此の説とアンテシーデント及コンセクエンスとして前に申しました音楽構成上の原則と類似を考へてみるのも面白いことでありませう。

興味の平衡

對稱の餘り現れて居らぬ繪も

澤山ありますが、さう云ふのは「隠然」の對稱のあ
る様に要素を配置してあります。バッファー女史は
これを代用的對稱と呼び、其の原則を明白にする
ために、繪の「重量」の項目を以下の様に分類致し
ました。其説によれば(一)團集、(二)深さ亦は通
景、(三)線・運・動及注意の方向、(例へば畫中の人
物が見て居る方向)、(四)興味と云ふのがあると申
します。好い繪では、大抵此の條項の二つが、他の
二つと對等になる様な均合が見出されます。尤も
一條項が特に強くて、他の三つがそれと均合をと
る様な場合は別であります。例へば肖像畫の場合
に人物と共に花なり動物なり、何か興味をひくも
の團集が一方にあれば、觀者はその向側に通樂が
深きか線の方向か、何かさう云ふものを豫期致し
ます。「代用的」對稱の方では、小さな面白いもの
と大きうてさほど面白からぬものとの平衡なども
あります。

形の對稱と興味の對稱とは、もとより繪畫的に

快適な形狀ではありませんが、併し共に絶對的に緊
要なものではありません。際立つて不平均な繪は
大抵不快なものにきまつて居りますが、併し繪に
依ては、對稱の概念もしくはそれに對する感じが
まるで浮んで來ない様に見えるものもあります。例
へばワットの描いたエレン、テリーの肖像の如き、
興味を惹くものは何もかも團集の大部及注意の方
向と共にずつと左側によつて居りますし、日本の
綿繪に左右均一の對稱などを見出さうとするのは
不可能で無いまでも余程困難であります。

かふ云ふ場合には、平衡の不足などは感せられま
せんし平衡などと云ふ考へが第一起つて參りませ
ん。

垂直軸線に於ける平衡

今一つ平衡に關す

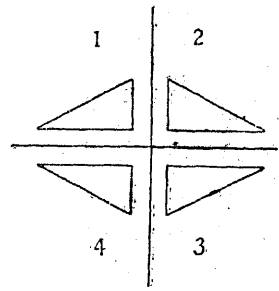
る問題は、布置の上部と下部との間の團集及空間
の分布であります。右半部左半部の配置は對稱に
なつて居ても、上半部と下半部とが全然非對稱的
なことがあります。一般には頭勝ちになるの避を

け、且いは充分の重さを作に添へるために、中央から上よりも下の方に力を入れます。ピーアスの實驗で、安固といふ事は左右の平衡より一層重要なものであると云ふ事が分かります。ピラミッドを顛倒すれば、不快な不安定な様子の建物となります。確固たる平衡は明白な標^{しるし}は底の幅であつて、最も重々しいものは多少目立つ位にその頂點へ向けて傾斜して居ります。併し美しく且よく平衡した形は、凡そ頂より底の方が大きいとは云はれませんが、物體の團集を繪の頂邊近くに描いて非常に好い効果を収めることもありませう。優美な花の集まりが上部を満たして、下部には唯だ其のほつそりした莖だけの繪もありませうし、ずつと高い處に雲が浮いて居たり鳥が飛んで居たりして、下の方にはゴミの仄かな風景の線許りで、殆ど空虚な空間の様なものもありませう。何故かう云ふ繪は顛倒したピラミッドの様に頭勝ちに不安に見えないのでありませう。あれはどう云ふ物は死んだ活力

の無い重さではなく、轉い織美なものを現はして居るからであります。空虚な空間を下にして繪の中心より上に花・雲・鳥などを書くのは、實にその性質によくあてはまつて居るもので、そのふわ／＼した心持と轉快さをよく現はします。それで此の二つの事實は、同一眞理を分けて居るもので、安固を得んが爲めには大きな團集は中心より下になければならず、その團集に重いと思はれる時には、斯うするが適當であります。又自由と輕快とを得んが爲めには、團集を中心より上においても好いので、團集が何か轉いものと現はす時は、斯うするが適當であります。どこまで觀念的要素が繪に於ける「重さ」の感じに影響するかと云ふ問題を、實驗的に證明することが出来たらば面白からうと思ひます。

中心的平衡、對、軸的平衡 此の圖に於ては左

側の1と4とが、右側の2と3とに對して水平軸線上の平衡を成して居ります。一軸線上に於ける



此の二様の平衡とは又別に、2と4と、1と3との間にも平衡の關係があります。ロスはこれを中心圍繞の平衡、又は二重轉回の平衡と呼んで居ります。

若し1に垂直線軸をまはらせれば2と符合し、次に水平線軸をまはらせれば3と符合します。此の種の平衡をよく説明してゐるものは北齋の波の圖であります(二十七頁の参照)。

此の波の繪は、視覺的の形に就て今迄申しました凡ての點を、明白に説明して居ります。包圍矩形の邊は三と二の割合(即ちフェヒネルが其金線の次に置いた割合)であります。二つの最も顯著な線は、幾筋の從屬線と同じく蛇狀の形であります。左方の波の團集と、右方に出て居る空氣の深さ(彩色版には現はる)の効果との間には、代用的對照があります。又右から下り落ち乍ら左から搖り返さ

れた波の中に見える對向せる力の激動があります。波の輕快さは波頭が思ひ切つて繪の頂端に近いと云ふ事實に依て増して居ります。又蛇狀の線は織器に反復されて二つの主な線、xとyとの間には二つの回轉の平衡の關係があります。

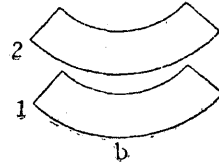
錯視の効果

藝術家は眼の錯覺即ち錯視を利用し、又は其の缺點を償ふために、其の性質を認めるのが肝要であります。次にさう云ふ錯視の中で最も普遍的で明白なのを挙げましよう。

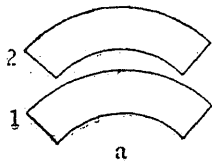
(一)垂直の距離は水平の距離に比し多く見過ぎられる傾向があります。故に眞の正方形はその廣さより些か丈が勝つて見えるので方形に見せる爲めには圖案家は幾何的の正方形より稍や幅廣にしなければなりません。寸法は正方形を成して居るものよりも見掛けの即ち錯視を推定に入れた正方形の方が美發快感を與へるものであるとは實驗の所であります。

(二)視野の上部に於ける大きさは余計に思はれ

る傾向があります。Bの字は上下とも大きさが平等な様に見えますが、これを顛倒して見ると、普通の上方の部分の部分を餘計に見過ぎてゐることが分かります。



(三)此の形體の上部の誘張は他の錯視に依て反對になることもあります。此の圖aの1は同じ大きさであり乍ら、2より稍や大きく見え、bの1は矢張り同じ大きさの2よりも小さい様に見えます。



(四)彼のよく知られて居るミューラー、ライヤー錯視は、藝術上の取扱ひ方に影響を及ぼす錯視であります。線の見掛けの長さは、それから出る線の方を變へれば變化することが出来ます。

(五)錯視の藝術的矯正の一例は、クラシックのものでは希臘の寺院にあります。寺院の平臺は垂

直線を支えて居る長い水平線の見掛けの撓みを矯める爲めに、中央で上方に彎曲して居ります。

エンタシス又は圓柱の外側のふくらみは、硬い直立線が多少凹状に見えるのを防ぎます。圓柱の軸線は、其の頂點で少し歸聚する様になつて離れぐゝに見えぬ様にしてあります。

人の免れ得ぬ錯視は、まだ外にいくつもありまして、上述の錯視にもいろいろの形がありますが、兎に角錯視が藝術製作上に及ぼす影響の重大なことだけはこれで述べ終りました。

活動と安靜の合致

どんな藝術品でも、活動的線許り、又は靜平な線許りでは出来ません。激奮のみしか與へぬ圖案は人を疲勞させ勝ちですし、安靜のみしか與へぬ方は人を倦怠させ勝ちであります。どちらの場合にしても眼は變化と休安とを求めます。こゝでも亦刺戟と休息との平衡を稱すことが出来ます。バップト女史の方式を各藝術の標準に致しましたが、さうすると作に依とは安

息より刺戟力が勝つても差支のない事實を許すことが出来なくなりませう。兩方の量には關はらず、活動と安靜との「合致」を採つた方がもつと自由な方則でありませう。

條件の順應 藝術家が新らしい形を作る場合には、單にそれを「意匠」するのではなく、何かの爲めに又は何等かの要求に「應」ずる爲めにそれを意匠するのであります。或る空間の面の裝飾を頼まれた圖案家は、その範圍内で工夫せねばならぬ或制限に出會ひます。その空間は或形の或大きさのもので、建物の或位置を占めるものであります。建物自身が既に或目的の爲めであつて、圖案は或概念をあらはす様に又は或出來事を記念する様にと望まれる事もありません。是等は凡て藝術家の想像を非常に妨げる様に一寸思はれますが却てさも無ければ考へられぬ線や形の配置に就て暗示を與へる事があります。註文なしでする時は自分で制限を作らねばならず、暗示の出て來る様な情況に

居るつもりにならなければなりません。作品の中では或線は他の線への應答であるが如く、全體としての作品は、情況若くは條件に對する應答であります。此の特種の條件に従ひ且それを表現することに依て圖案は個性を帯び特質を得る様になります。藝術家は其の古い心像を新らしい情況にあてはめ、新らしい條件と合致させて茲に始めて何か新しいものが出來るのであります。我々は一目で如何なる空間のために或形體が意匠されたが、方形か、圓形か、三角有壁か、孤形面かと云ふ事が分ります。斯様な事が出來るとすれば、圖案は其の空間的條件を表現し、且それに適應して居るものであります。又それを作らせた情操が他人に分かる様な圖案は、亦別の條件を表現し且それに適應して居るものと申すことができます。